新 今昔物語 第9話

## 大東ふるさとカルタに見る地域遺産①

# 『堂山は 金の鳥なく 元日に』

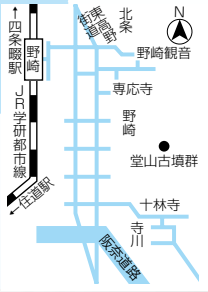
寺川5丁目の堂山には古くから「正月の元旦の朝、金のにわとりが鳴く」という伝承が残されていました。その地で古墳が発見されたことは、やはり伝承は何らかの背景を受け継いでいるものと実感することができます。

堂山古墳群は、昭和44年、47年の発掘調査により、古墳時代中期前半（5世紀前半）に造られた1号墳、古墳時代後期～終末期（6世紀後半～7世紀）に造られた2～7号墳および未調査の8号墳で構成された古墳群であることが明らかにされました。

1号墳は径約25メートルの円墳で、鉄製の甲冑、刀剣21本、鉄製の弓矢の矢じり198本と、非常に多くの武器類の出土が特徴的で、当時における北河内地域の統治者の墓であったとされています。また、2～7号墳は南斜面に密集する群集墳で、須恵質四注式陶棺を使用した3号墳、T字形の横穴式石室を持つ4号墳、一つの墳丘に二つの石室を有した双室墳の可能性がある5号墳、6号墳など、多彩で特異な様相を持っています。

古墳時代の北河内の実態を解明する上で欠かせない古墳群と言えます。（生涯学習課）

＊「大東ふるさとカルタ」は市役所の市民情報コーナー、歴史民俗資料館、アクロスで販売しています（1部千円）。



鉄製甲冑

須恵質四注式陶棺